

## メール管理の将来性を見据えて、最先端の環境を構築。

東京大学情報基盤センターは、利用者に対して高度で先進的なサービスを提供することを目的とし、超高性能計算サービス、キャンパスネットワークサービス、情報メディア教育サービス、図書館電子化サービスなどを提供している。同センターでは、利用者へのサービスを前提に、技術的な革新も目指し、国際水準の研究成果を発信することも最重要課題と考えている。そして、同センターの情報メディア教育部門では、最先端のメール環境構築を目的として、DEEPSOFT の MailSuite を採用。処理性能の高い汎用サーバで 3 万アカウントの運用管理を実現した。



東京大学  
情報基盤センター  
情報メディア教育部門  
助教 丸山一貴氏

### 常に時代の先端を目指すメール環境を構築してきた 東京大学情報基盤センター。

東京大学情報基盤センターでは、1990年代の後半から現在に至るまで、常に時代の最先端を目指したメール環境を構築してきた。過去、1999年には、高性能なサーバを導入し、UNIX OS で稼動するメールサーバソフトによってメール環境を運用していた。その後、メール利用の本格化にともない、負荷分散と障害時の被害を最小限にとどめるために、数十台のアプライアンス型メールサーバを並列稼動させるシステムを2004年に構築した。しかし、そのアプライアンス型メール環境には、いくつかの課題があった。その課題について、同センターの情報メディア教育部門で助教を務める博士（情報理工学）丸山一貴氏は、次のように経緯を振り返る。

「アプライアンスサーバ群は、それぞれスタンドアロンで稼動していたので、耐障害性で脆弱な面がありました。また、ウィルスやスパム対策を強化するために、DEEPSOFT のスパム遮断ソリューションである「SPAMBlock」を別に導入していました。加えて、Webmail サーバも他の製品を利用していたため、3つに分かれたシステムを管理する負担が生じていました。そこで、メールシステムの更新にあたっては、スパム対策とメールサーバの運用負荷を軽減し、コストパフォーマンスに優れ、耐障害性や拡張性など将来性を考慮したシステムを求めました」

### 汎用 OS+DEEPSOFT 製 MailSuite を Active-Active で構成した提案が採用。

日本電気株式会社 文教ソリューション事業部は、情報基盤センターの要求仕様に応えるために、メールサーバの基本構成そのものから提案を作成した。これまでのアプライアンス製品ではなく、処理性能の高い汎用サーバに変更し、超高速エンジンによる大規模メールシステムの運用管理を実現できる DEEPMail と、スパム対策で採用されていた SPAMBlock を統合した MailSuite によるソリューションを提案した。新たな提案では、4台の Linux サーバ上で MailSuite を Active-Active で稼動させ、高い処理性能と可用性を両立し、外部の NAS サーバ NECiStorageNV7400 に RAID10 のストレージを用意してメールデータを保存することで、データの堅牢性も確保した。また、これまでアプライアンスサーバと分かれていたスパム対策やウィルス対策、さらには Webmail クライアントにおいても、MailSuite に統合することで、一元的な管理と運用負荷の軽減を可能にし従来の課題をクリアした。システムの提案にあたった同事業部マネージャー 北瀬聖光氏は、MailSuite について、次のように評価している。「MailSuite は OS などのプラットフォームに対してオープンな対応を実現しているだけでなく、外部ストレージなども自由に選択できたので、システムインテグレータとして最善の提案を作成できました。」

#### 顧客名

- 東京大学 情報基盤センター

#### 要求仕様

- メール機能の一元管理
- 障害時の迅速な対応力
- ユーザ要望による柔軟な機能追加

#### 導入システム

- DEEPSOFT 製  
MailSuite 30,000 ユーザライセンス
- NEC 製 Expressサーバ (Linux) x4 台
- NEC 製 iStorage NV7400 (NAS)

#### 導入効果

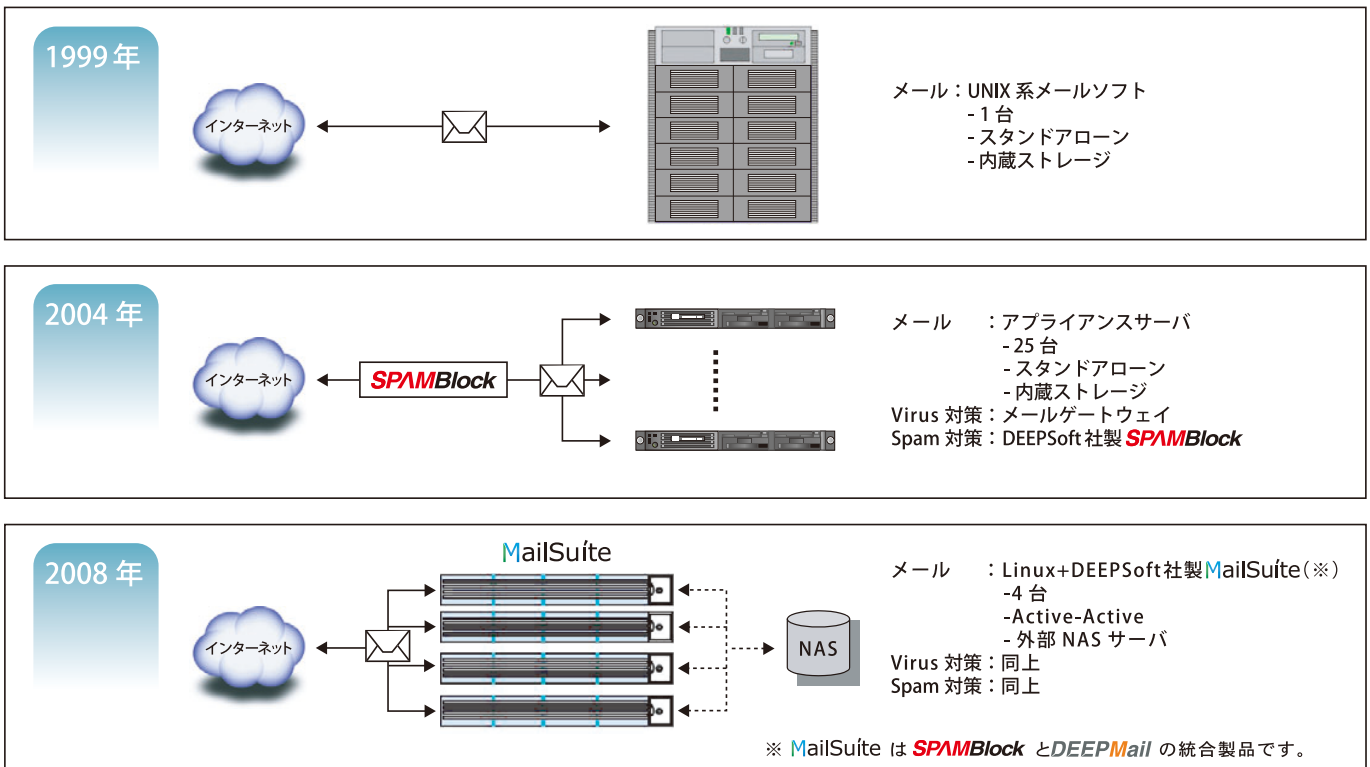
- SMTP、POP・IMAP・Web メールによるクライアントアクセス、ウィルス・スパムメール対策を Mail Suite で統合
- マルチサーバオプションによる冗長構成
- 国内開発拠点による保守サービスの向上



**国内での手厚いサポートと充実した開発体制で、要望に応じたカスタマイズや迅速な障害対応を実現。**

2008年3月の導入後から数ヶ月を経て、システムの構築から運用を担当されてきた丸山氏は、次のような印象を語る。「前回入っていた米国ベンダーでは、障害解析・解析報告・修復に一ヶ月くらいかかっていた。それに対して、DEEPSoft社では一部不具合なども、早ければ連絡を入れたその日のうちに修復までしてもらったことがあります。また、製品のカスタマイズにおいても我々の希望する修正や機能追加を実現してもらいました」  
今回のシステム更新にあたり情報基盤センターでは、メールシステムの性能だけではなく、スパム対策など日進月歩で進化するシステムに柔軟に対応できる融通性や、将来的な発展や拡張も可能になる『伸びしろ』を重視して、汎用サーバ上にシステムを構築した。同センターでは、事前に国内

外の主要なメールシステム開発メーカーをリサーチし、何社かは実際に海外の本社に出向いて、入念なヒアリングや調査も行ってきたという。その中で日本の文教市場の文化をよく理解した上で製品開発を行い、ユーザからの要望に対して迅速に機能の追加や修正に対応できる DEEPSoft 社の製品とサポート体制を丸山氏は評価している。「今後は、まだ学生に公開していない機能もあるので、利用者からの要望も聞きながら、より多くの機能を提供していきたいと考えています」と丸山氏はオープンなプラットフォームで柔軟な構成と迅速なサポート体制を実現した MailSuite によるトータルソリューションに対して、今後のさらなる機能拡張や学内サービスの充実に向けた取り組みを考えている。



■製造開発元



〒116-0013 東京都荒川区西日暮里二丁目49番10号(ドミール杉山3階)  
TEL：03-5850-4100 FAX：03-5850-4170  
http://www.DEEPSoft.co.jp e-mail：Info@DEEPSoft.co.jp

